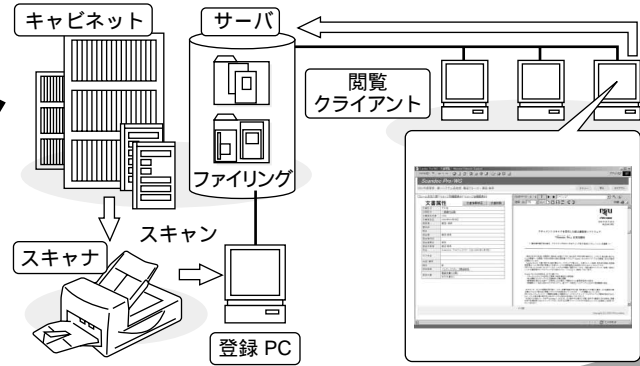


新製品紹介

文書ライフサイクル管理ソフトウェア Scandoc Pro



Scandoc Pro は、大量に発生する紙文書をイメージスキャナで電子化し、文書のイメージ参照、原本所在管理、保管期限管理といった「紙文書の管理」と「文書イメージでの業務運用」を効率的に行うためのソフトウェアです(図-1参照)。

Scandoc Pro には、部門内での運用に適した「WG(ワークグループ)」モデルと文書主管部門と複数の運用部門間での幅広い運用に適した「SD(スタンダード)」モデルの2種類のモデルがあります。

今回は、3月に出荷を開始した「WG」モデルの機能を中心に紹介します。

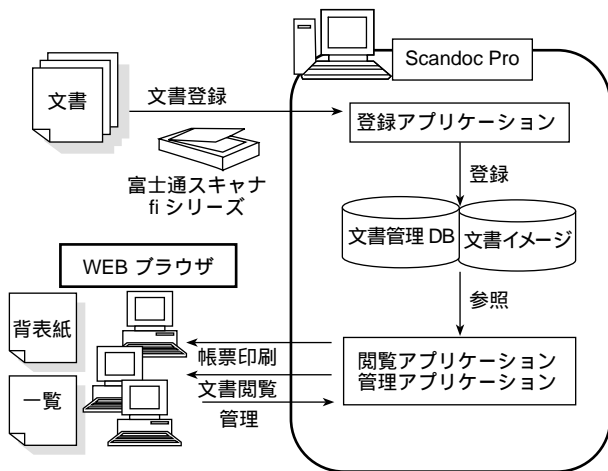


図 1 Scandoc Pro の概要

開発の背景

PFU では、2000年に簿冊管理システムを自治体向けに出荷しました。このシステムは、情報公開法施行に向けた原本文書の所在管理、保存期限管理、公開手続きなどの文書管理機能を実現しました。この際、自治体担当者から管理文書の画像イメージをシステムで閲覧したいという声を数多く伺いました。しかし、画像イメージをシステムに組み込むためには、実用性の高い入力装置の採用、画像品質とデータ容量のバランス、ネットワーク負荷の増大、ストレージコストの増加、PCのハイスペック化などの課題を解決する必要があり、全ての条件を

バランスよく解決する方法が必要とされました。

PFU は、業務用スキャナとして世界シェア No.1 の fi シリーズスキャナ、国立国会図書館で採用された株式会社ベンチャーウェーブ^{注1)}の画像処理技術、OCR ソフトウェアとして定評の高い富士通 DynaEye の帳票フォーマット認識技術を簿冊管理システムに組み込むことで、実用性の高い紙文書管理ソフトウェア Scandoc Pro として製品化することができました。

商品コンセプト

PFU の紙文書電子化ソリューションのコンセプトは、「ドキュメント・トレーサビリティの確立」です。Scandoc Pro は、このコンセプトを実現するとともに、担当者の業務負荷をダイナミックに軽減することを目指した商品です。

特長

▶ 簿冊管理情報と電子化(イメージ)文書を一元管理 ◀
簿冊管理情報(原本所在管理、保管期限管理等)と文書のイメージデータを図-2に示すように一元管理することにより、簿冊(バインダ)単位の管理から文書1枚単位の管理をスピーディに実現します。

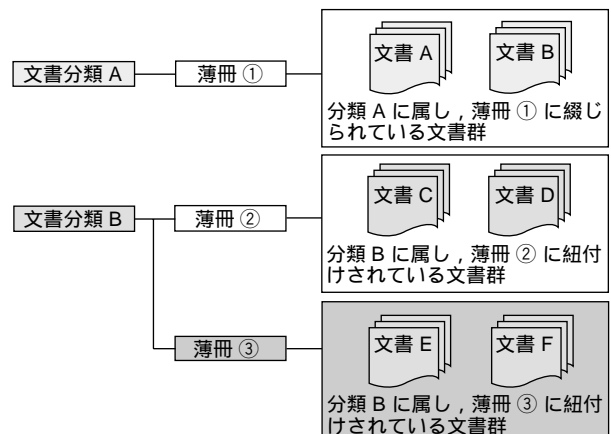


図 2 文書分類、簿冊、文書の関係

▶ 簡単な登録 ◀

文書が発生する場所で分散登録を可能にするために、イメージスキャナ fi シリーズの ADF^{注2)} 装置による確実に高速な登録処理や予めパターンを登録した帳票を自動的に仕分けて登録する自動仕分処理により、余計な手間を省いた簡単登録機能を実現しています。

▶ 高圧縮ファイルフォーマットによるセキュリティ ◀

画像を処理する U.C.V エンジンにより文書の電子化を画期的なレベルで高速圧縮、高圧縮率、高精度で実現するとともに、専用ビューによるセキュリティ（改竄防止、漏洩防止）を両立しています。また、イメージデータで蓄積することにより閲覧のために各ソフトウェア（CAD 等）を必要としません。

▶ 文書の引継ぎ、廃棄業務を簡単に ◀

文書の原本を手にとることもなく Scandoc Pro に、登録された全ての文書の内容を高品質なイメージによりパソコン画面で簡単に確認することができます。これにより、日常業務に必要な文書内容の確認作業はもとより、文書管理の引継ぎ業務や廃棄業務もパソコン画面で簡単に処理できます。

採用技術

▶ U.C.V エンジン ◀

(株) ベンチャーウェーブの画像処理エンジン Ultra-Compress Vector-Engines (通称 U.C.V エンジン) により、高速圧縮・高圧縮率・高精度な画像処理を実現するとともに、グループキーを設定することにより限られた閲覧環境でのみ表示可能なセキュリティ性の高い運用モデルを実現しています (Pentium III^{注3)} 600 MHz 搭載 PC で 3.8 M バイトの BMP を 0.3 秒で 37 K バイトに圧縮できます。).

▶ 富士通 DynaEye Pro ◀

帳票 OCR ソフトウェア DynaEye Pro のアプリケーション・プログラム・インタフェース (API) により、帳票フォーマットのパターン認識による自動仕分機能を実現しました。登録 PC 単位で最大 100 種類の帳票フォーマットを登録・仕分することが可能です。

適用

▶ 自治体 ◀

- ・自治体における簿冊管理業務の IT 化 (図 - 3 参照)
- ・住民や業者からの各種申請書の電子保管

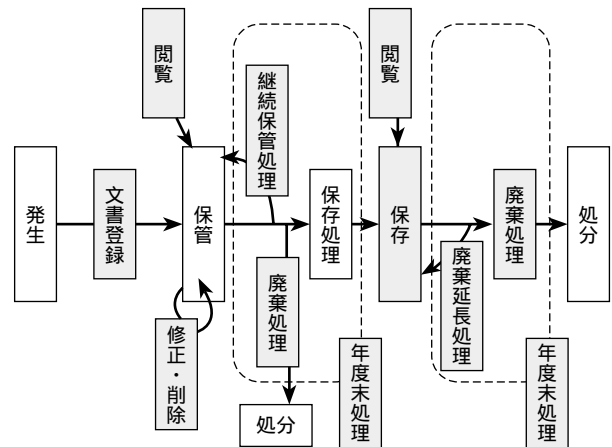


図 3 文書のライフサイクルフロー

▶ 企業 ◀

- ・法律や社内規約で保管が義務付けられている紙文書の電子保管 (契約書、注文書、設計図面、仕様書等)
- ・企業内の情報共有システム

動作環境

項目	動作環境
OS	Windows 2000 ^{注4)}
CPU	Pentium III 800 MHz またはそれ以上の Pentium 互換 CPU
メモリ	256 M バイトの RAM 推奨
ハードディスク	システム領域に 4 G バイト以上の空き容量が必要。 登録文書のイメージデータ及びデータベースファイルの格納領域用に 30 G バイト以上の空き容量が必要
USB ポートまたは SCSI カード	TWAIN ドライバに対応した接続ポートが必要で。

注 1) 株式会社ベンチャーウェーブ

<http://www.venture-wave.com/index.html>

注 2) ADF : Automatic Document Feeder (自動給紙機構)

注 3) Pentium は、Intel Corporation の登録商標です。

注 4) Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

画面例

問合せ先

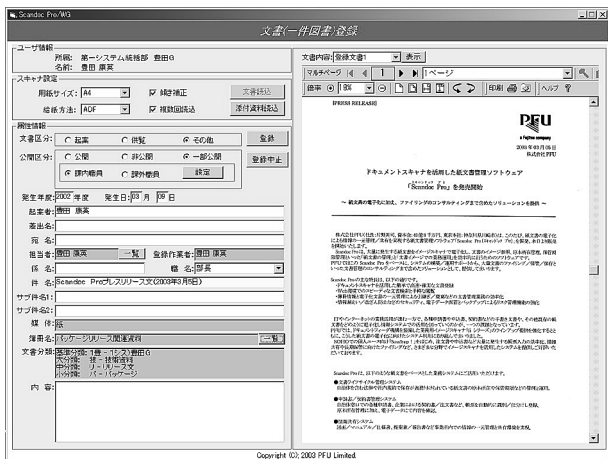


図 4 ScandocPro の登録画面

(株) PFU ソリューションビジネス本部システム事業部
 第一システム統括部
 Tel. : 044-540-4644 Fax. : 044-549-7193
 E-mail : toyoda@pfu.fujitsu.com
<http://www.pfu.fujitsu.com/products/scandoc/>